

# 南山の風

## JICA中部と愛知大学の見学へ

8月5日(火)、小学生5・6年生の4名が『親子探検ツアー JICAと愛知大学へ行ってみよう』に参加しました。南山寮のボランティアさんがこの企画の主催者の一人であったため、声を掛けてくださったわけです。

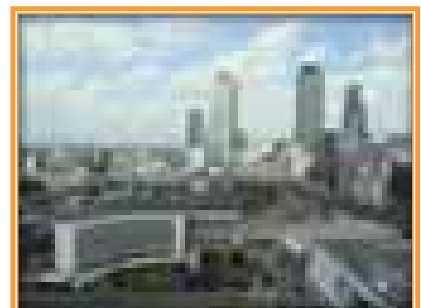
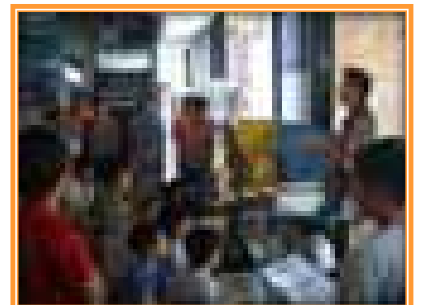
まずは、JICAにて「国旗あてゲーム」「いすとりゲーム」からスタート。参加者一人ひとりに国旗のカードが渡され、その国旗がどの国のもので、世界地図のどこに位置するのか、というワークショップから始まります。南山寮の子どもたちは、ガーナ、ブラジル、スリランカの国旗を手にしていました。FIFA ワールドカップが終わったばかりだったからか、さすがにブラジルは知っていましたが、ガーナやスリランカについては全く知らなかったようです。

次に、子どもたちへの国際理解教育を目的として開設されたJICA「なごや地球ひろば」に移動しました。ここの体験ゾーンでは、世界が直面する地球規模の課題を、体験型展示で学ぶことができます。さまざまな体験キットや展示品、タッチパネルなどを通して、途上国の現状や、世界と自分たちのくらしとのつながりを知り、「自分にいま何ができるか」を考えます。

子どもたちが興味を持ったのは、世界には、学校に行きたくても行けない子どもが7200万人もいるというコーナーです。「学校に通えないと、どうなるのだろう?」、「なぜ学校に通えないのだろう?」…日頃は学校で勉強できる環境があることをありがたい子どもたちですが、世界の現状を知り、学校に行っても勉強できないことがどんなに重大なことなのか、少しだけを考えてくれたようです。

もう一つ子どもたちが関心を示したのは、搭載された簡易浄水装置により、ペダルを漕ぐことで汚れた水をキレイな水に変えることのできる自転車の体験です。ペダルを漕いでキレイな水を作る体験をしながら、開発途上国だけでなく、東日本大震災の被災地でも活躍した装置だという説明を一生懸命聴いていました。

その後、すぐ隣にある愛知大学名古屋キャンパスに移動。この日はちょうど高校生対象のオープンキャンパスで、学食のランチがオール200円…子どもたちもびっくりのサービスでした。その後、大学生のお姉さんに、最新の設備と近代的な外観が整ったキャンパスをくまなく案内していただきました。最上階の巨大な教室からは、名古屋駅の風景が一望でき、あまりに素晴らしい施設設備に、イマドキの学生がいかに恵まれた学習環境を有しているかを羨ましく思う一方、(十分な助成制度や施策が整備されない限り)施設の子どもたちには私立大学進学には縁がないことを切なく感じてしまいました。



# とにかく暑かったスポーツ大会！

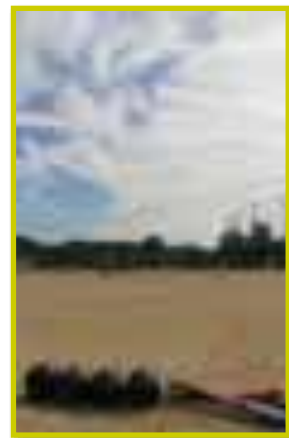
8月20日・21日の2日間、大高緑地公園野球場にて、第61回児童福祉施設スポーツ大会が開催されました。予想最高気温が35度を超え、風もなく、日なたに立っているだけで肌がジリジリと焼けそうな残暑の厳しい2日間でした。青空に浮かぶ雲ははやくも秋の装いで、時々見かける赤トンボも秋が近いことを告げてくれているのですが、とにかく暑かったです。

1日目は、南山寮のソフトボールチームの試合です。今年の南山寮は選手がなかなか揃わず、9人ギリギリでの出場となりましたが、あまりの暑さのため開会式の最中にメンバーが熱中症で倒れてしまったため、中学生が代わりに出場してのオープン参加となりました。

対するは優勝候補筆頭の駒方寮さん。南山寮からもランニングホームラン3本が飛び出す乱打戦となりました。しかしながら、南山寮は練習不足以前に、メンバーをなんとか確保した急造チームであり、基本的なルールの把握もできていなかったりして、珍プレー続出でした。生まれて初めての打席を迎えたSくん…なんとバッターボックスではなく、ホームベースの真上に立って堂々とバットを構えました。その立ち姿の可愛らしさに味方も相手チームも笑顔になりました。結果は6対20と大差がつきましたが、お互いに声を掛け、励まし合う姿が微笑ましく、良いチームワークを見せてくれました。

2日目は、南山寮と若松寮との混成メンバーによる野球チームが登場しました。南山寮からは3人の中学生がレギュラー参加。くじ運が良くシードだったので、ひとつ勝てば決勝戦です。

1試合目は、強豪の玉野川学園戦でしたが、南山寮の子どもたちの活躍もあって快勝し、決勝戦に臨むこととなりました。決勝の相手は、ここ何年か連続して優勝している名広愛児園さん。途中までは息をのむ投手戦でしたが、不運にも味方チームの投手にアクシデントがあり、結局は大差で負けてしまいました。それでも準優勝！ 茹だるような暑さの中がんばった子どもたちに拍手です。



# 海洋安全教室でセントレアへ！

8月18日（月）、公益社団法人中部小型船安全協会さんのご招待で、今年も名古屋港から船に乗ってセントレアまでの“旅”を楽しみました。名古屋港のガーデンふ頭から、名鉄海上観光船に乗って約1時間のクルージング。

海上保安庁の職員さんから海に関する話を聞いたり、ロープワークの訓練をしたり…船はあっという間にセントレア桟橋に着いてしまいました。

美味しい中華ランチをご馳走になり、セントレア内を空港職員に案内いただいた後、セントレアホールにて、「なぜ飛行機は飛ぶのか」の学習コーナーが開催されました。

天気が良く、夏の陽射しが肌に痛いほどの暑い日でしたが、参加した小学生は海と空を学ぶ旅を満喫していました。



# そうだ！森へキャンプに行こう！

8月28日（土）～29日（日）南山寮女子棟児童20名・職員7名の総勢27名で岐阜県の加茂郡にある「クオーレの里」へ1泊2日のキャンプへ行ってきました。泊まりでの山キャンプは初めての児童が多く、子どもたちは「キャンプってなに？」「キャンプって何するところ？」と、出発時から【???】がたくさん頭の中に浮かんでいるようでした。

一日目、到着して早々に昼食を終え、川遊びへ…連日の雨で川の増水を心配していましたが、浅瀬で遊べる環境があったので川遊びを満喫することができました。川を初めて体験する子どもも多くいたので、子どもたちは大はしゃぎ！当初は足をチャップチャップするだけの予定が、全身が濡れることも気にせず、水のかけ合いをして全力で遊んでいました。その後ずぶ濡れになった服を乾かすために、木と木の間にロープを張り、洋服を干しました。どうすれば上手に服を干せるかを皆で試行錯誤…。

キャンプ定番の夕食作りではカレー&BBQ！そしてキャンプの醍醐味と言えば…飯盒すいさん！薪で火を起こし、飯盒の前に張り付き、飯盒から出る水を眺めます。ご飯が炊けるか不安そうに飯盒の子守りをしてくれる児童が沢山いました。BBQでは焼く事が間に合わなくなるほど長蛇の列が出来ていました。「おいしい」「はやく～」と満面の笑みを浮かべます。



夕食を終えると、待ちに待った花火大会&肝試し。肝試しは始まる前から号泣をする子、余裕の表情を見せる子など様々な子がいました。驚きポイントでは沢山のビックリ顔を見ることができ、脅かす職員側もいつのまにか本気になっていました。

夜は「絶対寝ない!!!」と意気込んでいる児童が多数いましたが、皆すぐに寝息のオーケストラを奏でていました。虫の音色…川のせせらぎ…子どもたちのイビキは朝まで続きます。

二日目は7時に起床のはずが7時前から子どもはソワソワ…洗面を済ませ朝食を皆仲良く作りを始めます。トーストの上にベーコンエッグを乗せてみんなが大好きラピュタパン!!!! その味は絶品！大好評。某職員…子どもに名前を呼ばれ、振り向き様にパンの上の目玉焼きが飛びました！無念の叫びが響きます。

その後は大広場に集まりバドミントン、テニス、キャッチボール、散策をしました。芝生の上でツルッと滑り転がりながらも楽しそうに遊びます。

道の駅の喫茶にて昼食を食べて、その後は温泉へ。キャンプの疲れを全て洗いながすことが出来ました。初めての泊まりがけのキャンプでしたが、何事もなく、皆元気に過ごすことが出来て良かったです。片付けや準備等も率先して行ってくれる児童がほとんどで、普段見ることのできない姿をたくさん見せてくれました。帰寮後は、キャンプの余韻に浸りながら、来年のキャンプでは何を行いたいかを話し合う姿も見られました。 <文責：3Fオーロラ保育士 菊谷梨華>



# 2Fコスモの夏休み

8月28日～29日にかけて、大高緑地の『青少年宿泊センター』に一泊二日のキャンプに行ってきました。夏休みに入った子どもたちは、夏の行事・イベントや招待、ボランティアによる催し、部活動、外出・外泊など、いろいろ夏を満喫していましたが、なかなかコスモ全員が参加することができませんでした。

そこで今回、コスモ（2F男子ユニット）の子どもたち全員が参加できる行楽として、夏にしかできないキャンプを企画したのでした。

天気予報では晴れマークはなかったものの、子どもたちの思いが届いたのか、奇跡的に雨が降ることなく過ごすことが出来ました(^◇^)

一日目は、アスレチック、野球、BBQ、フットサルと予定が盛り沢山！

「ローラー滑り台めっちゃ長い！！」  
「バツとかカブトムシめっちゃいる」  
「今のストライクでしょ！」



など刺激的な体験ばかりで、いつも以上にいきいきとした顔を見せてくれました。

フットサルではなんと！『ゆうりん』さんがわざわざ青少年宿泊センターまで遊びに来てくれました。せっかくなので試合をしましたが、昼間の楽しい顔とはちがいで、真剣な(怒ってるの?)顔をみせてくれました。『ゆうりん』さんありがとうございました(^\_-)-☆

二日目は、釣り、ゴルフ、プールと、こちらも予定が盛り沢山！

朝食・昼食は自分で作りましたよ。  
出来る男は料理から(´ー`)ノ  
(カップラーメンもありますが…)

「卵の殻はいっちゃった！」  
「一匹も釣れなかった…」  
「ゴルフ超楽しい！またやりたい！」

など夏の遊びをコンプリート。夏のメはやっぱりスイカ！

「また来たい！」「もう一回ゴルフやりたい！」「園工の宿題まだやってない…」という様々な声が響きつつコスモの夏が終わりを迎えます。

<文責： 2Fコスモ児童指導員 林大介>



## 特集 八事いりなかの今は昔…

### その9 続・旌忠社（招魂社）はどこに？！

前回、南山寮がある場所にかつて存在した新豊寺に、尾張徳川慶勝公が旌忠社を建立して、戊辰戦争で亡くなった藩士の英霊25柱を祀り、その後旌忠社は川名山（現在の聖霊病院）に移転し、招魂社と改名したと記述しました。しかしながら、旌忠社が新豊寺にあったという説は「昭和区誌」に記されているのみで、通説では旌忠社は最初から川名山に建立されたことになっています。招魂社は、明治34年に「官祭招魂社」と改称され、大正7年に城北練兵場（現在の名城公園）に遷座、さらに昭和10年に現社地に遷座され、昭和14年「愛知県護国神社」と改称されています。

大正7年に招魂社が城北練兵場（現：名城公園）に遷座された際、新たな社殿がその地に建立されました。このとき、川名山にあった招魂社の本殿や拜殿はその後どうなったのだろうかという疑問が生まれました。八事八中歴史研究会の横井氏から、旧川名山招魂社にあった社殿は他の神社に寄進されたという話があり、八事神社の拜殿がそうなのではないかという情報をいただき、現地調査を試みました。しかしながら、八事神社の拜殿は、前面がコンクリート造りで奥が木造であり、奥の木造部分も比較的新しく、明治時代に建てられたものとは考えられず、社務所に人もなく、情報収集できないまま、現地をあとにすることとなったのです。八事神社の隣には、南山寮の子どもたちが毎年食事のご招待でお世話になっている塩竈神社があります。挨拶も兼ねて山田禰宜を訪ねて懇談する中で、八事神社訪問の目的を話すと、思わぬところから新たな情報を得ることができました。なんと、「八事神社の拜殿と塩竈神社の本殿は招魂社から移築したものだ」と、塩竈神社の口伝で山田禰宜がお父上から伝え聞いていらしゃったのです。山田禰宜によると、八事神社の拜殿は、招魂社を移築したものでありましたが、残念ながら、数年前の建て替えて往時の拜殿は取り壊されてしまったということでした。塩竈神社の本殿も、招魂社から移築したものであり、屋根の葺き替えは実施したものの、素敵なことに、現在もその本殿を使用しているとの情報が得られたのです。



「旌忠社」（招魂社）があった川名山は、明治45年、名古屋千種～八事間に「尾張電気軌道」が開通すると、現在の地下鉄「いりなか駅」の地に電停「招魂社下」が設けられ、名古屋からの多くの参詣客で賑わったそうです。明治45年に発行された「尾張電気軌道 沿線名所案内」（明治45年刊）には、次のような記述があります。

「尾張電気軌道 沿線名所案内 川名山招魂社」 ⇒

川名山招魂社（招魂社下 乗降場アリ）

『御器所村大字広路字川名山ニアリ、明治二年旧藩主徳川慶勝、之ヲ創建シ戊辰役戦死者ノ英霊ヲ祀リ後、西南戦役死者ノ霊ヲ合祀ス、境内眺望絶佳ニシテ春秋来リ遊ブモノ多シ』



かつて社殿が鎮座していた川名山一帯には現在聖霊病院が建っています。平成11年12月に、愛知県護国神社鎮座百三十年を記念して、愛知県護国神社前宮司の白井氏が「旌忠社跡」の碑を建立しました。碑は病院の敷地北側に立っていますが、実際に旌忠社（招魂社）の社殿があった場所は、『境内眺望絶佳ニシテ…』の記述から推測すると、病院敷地内の一番高いところ、社会福祉法人聖霊会の教会が建っている場所であったと思われます。



現在の愛知県護国神社は、昭和区滝川町の名の由来となる滝川豊後守の屋敷があった三の丸にあります。愛知県護国神社の境内から東側の裏手に廻ると、一番奥まったところに、川名山から移された「旌忠社」、「招魂社」と刻まれた石柱が静かに立っています。

## Nanzan Supporters ～よき支援の輪～

## ⑰ チュチュアンナさんから靴下が届きます

チュチュアンナさんは、女性用の靴下・下着・パジャマなどの服飾雑貨においては誰もが知るブランドです。愛知県にもイオンやアピタを始め、15もの店舗がある大きな企業（全国では218店舗）です。2004年、チュチュアンナさんは、社会への利益還元を継続的におこなうことを目的として「チュチュアンナ1%クラブ」を立ち上げ、2011年以降、児童養護施設の子どもたちに、年3回（春・秋・クリスマス）、靴下を届けてくださいます。8月にも秋を感じさせるフクロウをデザインしたソックスが届いたばかりです。南山寮の子どもたちは、チュチュアンナ製の靴下がお気に入り…女の子の心をくすぐるカワイイ靴下を嬉しそうに履いています。



### ☆☆ご連絡☆☆



### コラム 南山隼人 子どもが参画する地域福祉

大阪府の南端、和歌山県との県境に岬町という街がある。岬町では、「共創・共生」を基本理念とし、大人も子どもも地域の中で共に生き、共に学びあい、共に育ち合う「福祉共育」＝「共に生きる力を育む教育」を実践し、「福祉で」街づくりを行なっている。岬町の「福祉共育」において、子どもたちが主体的に参画し、大人たちの地域参加の動機づけにもなっている活動が2つある。

その一つが「見守りの隊キッズEye（ぼんちん）いあ活動」である。岬町の子どもたちは、週に一度、下校途中に、見守り対象者（単身の高齢者や障害者を持った方々）の自宅を戸別訪問し、地域の「一員」として声掛け活動を行っている。子どもたちによるこの主体的な活動は、地域・学校・家庭・社会福祉協議会の連携によって支えられている。

もう一つの「キユーピーグループ活動」は、岬町社会福祉協議会が、地域福祉活動計画を策定する際、地域の「一員」としての子どもの視点を入れるべく、「いっしょに歩けば街が良くなるのか、自分たちに何ができるのか」を「子ども懇談会」で話し合わせる中で、有志の子どもたちが立ち上げたボランティアグループである。その後、学校のクラブ活動としての「キユーピークラブ」へと発展し、地域住民や学校を巻き込み、地域の高齢者、福祉施設、病院を訪問して、利用者とともにシクリエーション活動を実践しながら交流を深めている。

子どもたちが目的と課題を持って、見守りの訪問活動や個別援助活動を促進する中で、地域の人の心づかいによる自身の「コミュニケーション」を通じて、子どもたちの「豊かな学び」「心の教育」という好循環につながった。さらには、高齢者や障害者との関わりを通して、子どもたち自身が「必要とされる喜び」「自己有用感」を体感でき、それが自身の活動に誇りを持つことにつながる。そして、実践そのものが先輩から後輩へ（次世代へ）と継承される。いわば活動そのものに持続可能な循環が生まれるに至ったのである。岬町の活動で着目すべきは、子どもたちの行動変容が大人たちの活動に触発された大きな影響をもたらした点である。大人たちが子どもたちの活動に触発され、子どもたちの情操教育に役立つならば、当初は地域福祉活動に消極的受動的だった大人たちが「地域の教育者」へと変化していった。岬町の取り組みは、大人と子どもが地域の福祉活動を「共に」担う好事例である。子どもたちには大人たちの行動変容を促す不思議な力が備わっている。子ども主体は、子どもの権利条約の基本的な精神であり、岬町の実践には私たちが子ども主体性を地域福祉に活かすヒントが隠されている。（リョウチョウ）

平成26年 9月号

（月刊：毎月1日発行）

<明治19年10月 第三種郵便物無認可>

発行：社会福祉法人 愛知育児院  
児童養護施設 南山寮

編集責任者： 施設長 山田 勝己

〒466-0835 名古屋市昭和区南山町5番地

TEL (052)831-3750 FAX (052)835-7483

e-mail: [nanzanryo.1909@space.ocn.ne.jp](mailto:nanzanryo.1909@space.ocn.ne.jp)